

新型コロナウイルス感染症では、嗅覚障害・味覚障害(におい・あじが分からない)が認められることがあると国内・国外ともに報告されています。咳、熱、倦怠感などの症状が軽い、もしくは無くても嗅覚・味覚障害だけを自覚するケースもあるようです。

以下の日本耳鼻咽喉科学会のホームページに記載されていますが、嗅覚・味覚障害はインフルエンザや一般の「かぜ」でも生じることがあり、必ずしも新型コロナウイルスだけが原因ではありません。

新型コロナウイルス感染症による嗅覚や味覚の障害には、特効薬がありません。また、自然に治ることが多いとされていますので、受診されても**まず薬なしで2週間自宅で様子を見ていただくこととなります**。新型コロナウイルスに感染していれば、その2週間の間にその他の症状(発熱や咳、息苦しさ、強いだるさ)が出る可能性があります。

「におい」や「あじ」の異常を感じても、発熱や咳、息苦しさ、だるさ(倦怠感)がなければ**2週間は不要不急の外出を控えてください**。医療機関への受診も控え、体温を毎日測定し、手洗いもこまめにしてください。家庭内でも人と接する際にはマスクを着けて対話をして、できるだけ家族や他の人の近くにいないように心がけてください。食事を一緒にとらないようにして、タオルを共有しないようにしてください。自宅療養中のポイントは次頁をご参照ください。

37.5度以上の発熱が4日以上続く場合や、発熱がなくても強いだるさや咳・息苦しさがあれば、お住まいの区市町村の帰国者・接触者相談センターにご相談ください。

もし、保健センターに電話相談をしたうえで、耳鼻科受診を指示されるようでしたら、**必ず受診の前に電話でご連絡ください**。(これは当院に限りません)

関連するホームページ

日本耳鼻咽喉科学会のホームページ:<http://www.jibika.or.jp/citizens/index.html>

各都道府県における帰国者・接触者相談センター紹介(厚生労働省)

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/covid19-kikokusyase/ssyokusya.html

寝屋川市保健所:072-829-8455

自宅療養中のポイント

1. 出来る限り家族との接触を避け、療養する部屋を分けましょう。
2. 看病が必要な場合は、看病する人を限定しましょう(できるだけ1人で行うことをお勧めします)。ただし、高齢者の方、基礎疾患(糖尿病、抗がん剤や免疫抑制剤、ステロイドを服用している)を有する方、または妊娠中の女性は看病を行わないことをおすすめします。
3. 患者さんとご家族でタオルを共有せず別のものを使うようにしましょう。
4. 患者さんの入浴は最後にしていただくことをお勧めします。
5. 療養する部屋から出る時はマスクをつけ、部屋を出る直前にアルコールでの手指の消毒をしてください。
6. 患者さんが触った箇所(ドアノブや手すりなど)をアルコールや0.05%次亜塩素酸ナトリウムを浸した紙で拭き取り消毒し、拭き取った紙は再利用せずすぐにゴミ箱に捨てるようにしましょう。
7. 定期的に部屋の窓を開けて換気してください。(目安として1~2時間に5~10分間程度)
8. 患者さんが使った衣類やシーツを洗濯する際は、手袋とマスクをつけて洗濯物を扱い、洗濯後には十分に乾燥させましょう。
9. 患者さんが出すゴミはビニール袋等に入れ、しっかりと口を縛って密閉してから部屋の外に出してください。ゴミを扱った直後はしっかり手洗いをしましょう。
10. 療養中、外出をしないように心がけてください。